

トピックス

1. 相撲好きの日本人
2. 迷惑な旅人



福留経営労務管理事務所  
姫路龍馬会  
社会保険労務士・行政書士  
福留章

# 龍馬通信

No. 88

2025年4月号

## 清明～穀雨の候

## 花あかり

あの人には「花」がある  
そんな風に言われたくて  
ちょっとお洒落のひとつも  
「花」とはオーラ  
そんな不思議は何処から  
「心の中に見事な花が咲いている人」  
その花は  
夢であったり 喜びであったり  
自信であったり  
感謝を忘れず いつも  
「ありがとう」と言える人  
闇夜の中でも その花の周りだけは  
ほんのりと明るい 花あかり  
そんな人を目指して  
毎日を生きてみたいと ふと思う  
いつも行く公園の一角  
たった1本だけど  
早咲きの桜 寒さの中で  
律儀に花を咲かせ 風に震えている  
ソメイヨシノに 先駆けて咲く  
ささやかな桜も また桜  
私にはふさわしいかも  
水ぬるみ 山わらう  
ひらり 春風に 舞う桜

米どころでは 田植えに備えて  
苗代づくり  
万物が 恵みの雨を得て  
ぐんぐん成長する季節  
  
令和の米騒動  
5kgの米が 昨年来  
倍ほどの高値になっている  
備蓄米の 放出も根本的な解決に成らない  
外国人や 一部業者による  
米の買い占めの うわさもある  
何とも 浅はかな人達  
有象無象の商人が 守銭奴になってしまう  
おぞましき  
裏金の問題が解決しないまま  
今度は 10万円のお土産  
何と言いついても政治活動に違いない  
金銭感覚のマヒした人たちの群れ

春の訪れ この晴れやかでさわやかな季節に  
疎ましい話が多い  
せめて自分の周りだけでも  
清明な空気に つつまれていたい

大自然は  
生きとし生きるものに  
慈雨を与える 穀雨

田畑を潤し 多くの穀物を育む雨

乾き切った人の心にも 沁みる





# 播州日誌

リレー随筆 「今も、そしてこれからも」

## 相撲好きの日本人

横綱不在、心がいない大関、替わり映えしない三役。にもかかわらず大相撲の人気は衰えを知らない。連日「満員御礼」が続いている。日本人の相撲好きは本物だ。外国人力士も多彩だ。幕内 42 名中モンゴルが 6 人、ウクライナが 2 人、カザフスタン 1 人。それを駄目だと言うつもりはないが、国技大相撲という面で見ると幾つか気になる点がある。本来大相撲は「神に捧げる儀式」が基本にある。土俵は神が宿る神代（かみしろ）であり、いまだに女人禁制の神聖な場所である。土俵を形作る俵も神聖なもので、またいでも踏んではいけない。足裏をこすりつけるなどトンデモナイ。

モンゴルにはモンゴル相撲があり、これも信仰に基づくものである。土俵がなく、倒れるまで闘う。草原のレスリングとさえいいかもしれない。外国人がだめだという事ではないが、独特の所作が目につく。ダメ押しやガッツポーズ、手刀（てがた）を切らずに賞金を受ける。張り出しや張り手、俗にいう「喧嘩相撲」。親方衆の指導、教育に期待するほかない。

大相撲の魅力は何と言っても立ち合いのぶつかり合いだ。150 キロを越す巨漢力士同士の立ち合いは迫力満点。狭い土俵の中で、力の限り闘い、技をかけあう。小兵力士の活躍は観客を興奮させる。勝った力士は負けた力士に手を差し出す。裸一貫、男勝負の 15 日。

さて今場所（春場所）は大阪で開催された。無理やり横綱に昇進させた新横綱 豊昇龍。強い時は一気にの寄りで迫力満点、組んでも多彩な技としぶとさで相手をねじ伏せる。今場所は緊張感からか平幕に取りこぼし、4 勝 4 敗になった時点で、いきなり休場となった。横綱不在、上位陣は大関を始め、多くの力士の力量が伯仲し、良く言えば群雄割拠、悪く言えばドングリの背比べ。場所替わりで好不調を繰り返す。大関琴桜は千秋楽に敗れて 8 勝 7 敗。やっとカド番脱出の体たらく。大関大の里が、ようやく面目を保って 3 敗で高安との決勝戦対決。平幕高安の悲願の初優勝ならず、大の里の勢いに夢を砕かれた。それなりの盛り上がりを見せ、千秋楽となった。

早く、強い横綱・大関の誕生を待ちたい。待望の日本人の横綱はいつのことだろう。

三段目優勝の 朝の山は昨年、膝の大けがにより 5 場所全休。2 度目の三段目陥落。そこからの再挑戦。2 度目の復活劇、不屈の闘いが続く。実力を発揮して早く幕内に戻ってきて欲しい。大相撲の楽しみ方は色々ある。それが今の相撲人気を支えている。

日本人の相撲好き、大相撲の隆盛。「今も そしてこれからも」



2025. 3. 24

## 迷惑な旅人

春の訪れとともに花粉の飛散がピークに達している。毎日のように警報が発令されている。それに気温の上昇が激しく既に夏日が記録され、最高気温 28℃が出現している。朝夕との気温差による体調不良を訴える人も続出。自律神経の失調で体調不良が重篤化する例もある。それに中国のタクラマカン砂漠から遠来のやっかいな旅人の襲来である。そう黄砂が花粉症に輪をかけるようにアレルギー化している。ぼんやりと空気の漂っていることが見てとれる。遠くの日輪は完全にぼやけている。目にははっきりと見える訳ではないが身の回りに砂状のものが



が付着して何かと悪さをしかけている。何ともはや大自然の威力を感じざるを得ない。タクラマカン砂漠は現地語で一度迷ったら二度と脱出できないという意味をもつ大砂漠。いくらか緑化への事業もしているようだが大自然の営みの大きさは人間の叡智を凌駕している。

播州は地勢的に飛来が比較的にな少ないと言われている。九州、沖縄、関東、東北では交通に支障が出る程の事もある。3月は26日がピークのようなのだが、このやっかいな旅人には早々に立ち去ってほしい。

そうそう迷走する政治的状况もついでに連れて何処か遠くへ立ち去ってくれればありがたい。

2025. 3. 26

## さかさ福

神戸元町の南京町あたりを歩く。中華料理店の中にもよく飾ってあるのが金魚の飾りと「さかさ福」。店頭には大きなやつをぶら下げているケースもあるし、土産物店には必ず置いてある。お店に限らず中国では各家にも飾り付けるらしい。金魚は金運の象徴とかでよく見かけるし「さかさ福」も多い。ある時、意を決してこの飾りの意味はと聞いてみた。すると「福」というのは幸せというより幸運を表すとの事でさかさに飾るのは天から「福」が落ちてくるようにとの意味があるらしい。苗字の一字に「福」が入る私にとっては、何とはなしに誇らしげな話で、益々この飾り物が気に入ったという次第。



台湾で印鑑を作ってもらった時の事。まず気に入った石を買ってそれを「先生」の所へ持って行く。字の好き嫌いを聞かれるが結局はおまかせになってしまう。ものの 20 分程で彫りあがる。そして一言、「珍しくまた縁起のよい「福」の字を彫らせてもらってまことに光栄です。貴男に幸運が舞い込みますように…」嬉しい一言に悦にいらしたら、どうやらお客さんのすべてに同じ言葉を発しているとか。まあいいか!!

2025. 3. 26

